

2018年度（平成30年度）学校評価報告書

（1）学年について

今年度も各学年が当初掲げた目標についてほとんどの項目において達成できた。特に、以前より教育保育活動の中心としている基本的な生活習慣を園生活の中で身につけさせること、集団活動の基本を身につけ小学校へつなぐことについては達成できた。また、個々の特性に応じて自己肯定感を大切し、何事にも前向きに取り組もうとする心情を育てるということについて当初のねらいは達成できた。その結果として今年度も保護者の皆様から高い評価を得ることができた。昨年度から取り組んでいる園児の主体性を大切にした設定保育のあり方、異年齢間の連携教育のあり方についても継続した取り組みを行い、一定の成果をあげることができた。この成果を基に2019年度からの活動を一層推進したい。

（2）各分掌について

各分掌とも当初掲げた目標についてほとんどの項目において達成できた。午後の預かり保育については、預かり担当教職員の創意工夫により大変高い信頼と満足度を得るにいたったが、改善の必要な点についてさらに工夫を重ね充実したものにしていきたい。その他、各分掌の取り組みについても保護者から十分な満足度が得られ、アンケート結果でも全項目について「満足している」以上であり、ほとんどの項目が「大変満足している」と高評価になっている。また、進学情報、保護者同士の交流については今年度もPTA役員様はじめ卒園・在園保護者の皆様のご協力で「保護者による小学校受験相談会」を実施することができた。

（3）リスク管理

リスク管理面における予防措置や対策、また解決について多くの保護者の皆様からの理解を得、安心・安全に対する信頼を維持することができた。

（4）重点課題について

昨年度に続き、園が掲げた重点項目①教育・保育力の向上②安全・安心な環境作り③カリキュラムの改善・教育課程・保育課程のスムーズな接続④教育・保育活動への保護者の理解の深化⑤安定した園児募集⑥学院各校との連携強化の6項目について、当初の目標を達成できた。①各種研修会へ積極的に参加した。②日々環境整備に努めるとともに3年計画の空調機器更新は、今年度目標を達成完了した。③接続を考慮したカリキュラムを作成、実施しカリキュラム化を図った。④今年度も専用サイトで日々の保育の写真を見られるようにしたことにより、日々の子どもたちの様子を今まで以上に知らせることができた。⑤今年度も順調に募集活動は進んでいる。⑥学院各校の協力のもと、他の幼稚園には無い行事やカリキュラムを展開することができ、保護者満足度アップの大きな力になっている。（例）小学校理科教員による科学遊び、小学校・大学施設利用、中・高等学校吹奏楽部によるサマーコンサート等

（5）苦情案件

公表を必要とする案件については無かった。

（6）総括

前年度の学校評価アンケートの保護者満足度の少し低い項目、自由記述に出てくる要望等を真摯に受け止め、

積極的な改善を実施し、ほとんどの保護者の方に満足いただける結果にまで高めることができた。これは幼保連携型認定こども園追手門学院幼稚園の全教職員が心をつなげて取り組んだ結果であり、教職員の日々の努力の成果である。